

学年	高校1年	教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2
教科書名	詳説 世界史 B (山川出版)			副教材名	アカデミア世界史 (浜島書店)		
コース クラス	全コース 全クラス			担当者名	梅田 匠/大江 律夫 菊池 伸浩/平井 領		

I. 目標

1. 模擬試験や入試に対応できる実力を身につけさせる。
2. 歴史的思考力を培って多角的な視点を持ち、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。

II. 授業のねらい

1. クラスの進路目標に即した問題演習をおこない、大学入試に対応できる学力の定着を図る。
2. 探究学習 (萩・広島研修・修学旅行・IP) と連携を図りながら、発想力・探究力・表現力を身につけさせる。
3. 現代におこる様々な出来事に歴史的背景があることを理解させ、物事を多面的に捉える力を身につけさせる。

III. 授業の進め方

1. 古代から授業を始め、映像や図表も使用しながら、その時々々の事例と現代とのつながりをつかませる。
2. 世界地図 (春休み)、文化史 (夏休み)、世界地図・文化史 (冬休み) を長期休業中の課題とすることで、受験に関する基礎学力を定着させる。
3. 全クラス共通で穴埋め式プリントを使用し、スピード感をもって授業を進める。
4. Classi NOTE・グループワークを積極的に活用する。学期毎に最低1回。合計3回。
5. web テストを積極的に実施し、理解度を確認するとともに、知識の定着をはかる。

IV. 学習上の留意点

1. 単発の記憶ではなく、いつ・だれが・どこで・何をして・どうなったかを関連付けて体系的に覚えること。
2. 穴埋め部分だけでなく、授業内の内容を細かくメモし、付随する知識も身に着けること。
3. 配られたプリントは、必ずノートに貼る、もしくはファイルで管理し、復習に努めること。
4. 入試問題に対応できるように、定期試験前には問題演習プリントを配布し、取り組むこと。
5. 毎時、必ず教科書・ノート類・図表・資料集を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 実施しない
- 1 学期 期末試験 : 古代オリエント (メソポタミア・エジプト・オリエントの統一・古代イラン)
- 2 学期 中間試験 : 古代ギリシア ~ ローマ共和政
- 2 学期 期末試験 : ローマ帝国・キリスト教
- 3 学期 学年末試験 : ローマ文化・古代インド

VI. 評価の方法

各学期の定期試験、小テスト、提出物 (課題)

※試験問題には必ず到達度テストや大学入学共通テスト方式の問題を入れる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	序章 先史の世界	単元小テスト	序章 人類の進化、文明の成立、人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につける。
	5	第I部 第1章 オリентと地中海世界		
	6	1 古代オリент世界		
	7			
		夏休みの課題：オリент文化史	夏休み明けの小テスト	
二学期	9	2 ギリシア世界	単元小テスト	第1章 オリент文明・ギリシア文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握する。 アテネにおける民主政発達の過程とその歴史的意義については、より正確に理解する。 ローマに関しては、ギリシア文明との比較を交えながら、ローマ文明が多くの点で現代文明の基礎となっていることを理解する。
	10		提出物 中間試験	
	11	3 ローマ世界	単元小テスト	
	12		提出物 期末試験	
		冬休みの課題：ギリシア・ローマ文化史	冬休み明けの小テスト	
三学期	1	第2章 アジア・アメリカの古代文明	単元小テスト	第2章 古代インド文明の発展と中国文明の起源に触れ、今日のインド社会や中国社会の骨格が形成されていく過程を把握する。
	2	1 インドの古典文明	提出物	
	3		学年末試験	

※ シラバスの内容については、進捗状況、理解度、その他の都合により変更する場合がある。